

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成 年 月 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	島根県 3271900254
法人名	医療法人社団沖田内科医院
事業所名	グループホーム さくら
所在地	島根県浜田市金城町七条ハ564番地1 (電話) 0855-42-0500
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成20年3月9日

## 【情報提供票より】 (平成 20年 2月 20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <input type="radio"/> 平成 <input checked="" type="radio"/> 13年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13人
利用定員数計	18人
常勤	13人
非常勤	人
常勤換算	9.3人

## (2) 建物概要

建物構造	木造り
	1階建ての 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,600円	その他の経費(月額)	9,000円	
敷金	有(円)	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要 (2月 20日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低 72歳	最高 91歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	独立行政法人国立病院機構浜田医療センター 岡本歯科医院 田中歯科医院
---------	------------------------------------

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	独立行政法人国立病院機構歯浜田医療センター
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浜田市より国道186号線を南に入った山あいの町金城町の中心部に、沖田内科医院を中心に介護老人保健施設さざんかと共に併設されている。居室は全て南向きで明るく、施設内は家庭的な雰囲気・環境づくりが工夫されていて利用者はそれぞれの場所でくつろいでいる。ケア理念「ゆっくり・一緒に・楽しんで・笑顔で」を見直し職員全員にアンケート調査を実施。日頃のケアを自己評価し理念の意識づけ、サービスの質の向上に意欲的に取り組んでいる。

役所から災害時の緊急避難場所としての依頼の要請もある。しかし、周辺地域住民は認知症理解にまだ乏しく、地域に溶け込むことに苦慮しながら啓発・広報に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	相談・苦情等の仕組みとして国保連のポスターを事業所内目につく場所に掲示している。また、法人の苦情対応窓口の担当者も設置されていた。介護計画の作成については独自の「生活歴調査票」を作成し、それをもとに、本人・家族の気付きや意見、関係者がアイデアを出し合い、話し合う等、昨年からの改善に向けて取り組まれていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営理念を利用者の立場になって見直し職員全員にアンケート調査を実施。ケア理念「ゆっくり・一緒に・楽しんで・笑顔で」を作成。日頃のケアを自己評価し理念の実施に向け意欲的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年2回程度しか開催できていない。外部のメンバーから「もっと地域に出かけて事業所をアピールして欲しい」と助言いただき現在試行錯誤中。地域との交流窓口、運営推進会議はせめて3ヶ月に1回程度開催し、利用者・家族や一般職員も参加して現場の生の声も発信できる場になるよう支援されることを望みます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	電話連絡、面会時の個別意見、家族会で出た意見はその都度上部へ報告し運営に反映させている。また、国保連のポスターを事業所内の目につく場所に掲示しているが家族の声は少ないのが現状。担当を決めて、各利用者の健康状態や日常生活ぶり、エピソードなど簡単なお手紙を毎月送付するなどの努力を重ねることで家族も安心感が増し、信頼関係が一層深まると感じます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会に地域の老人を招待、保育園児・ボランティア受入れ、手作りのおやつを近所に配る等地域住民との交流積極的に取り組んでいる。「認知症高齢者介護相談窓口」を設置検討中だが、「手作り事業所便り」を喫茶店やお店に配布したり、町で開催されている各種高齢者の集いを覗いて配布する等、地域に出かけて認知症理解の啓蒙運動を地道に続けられることを期待します。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットやホームの玄関に掲載・掲示されており、開設当初からの理念が「地域に密着し、開かれたホームになるようにします」が今も変わらず、職員間で唱和されている。今年に入り、ホーム全職員がアンケートを行い、「ケア」について話し合い、新しく「ゆっくり・一緒に・楽しんで・笑顔で」を、独自の「ケア理念」としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員で話し合いの中でつくりあげた、「ケア理念」を共有し、実践に向けて、日々取り組んでいる。また、各自チェックシートでケア理念についての取り組み状況を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入会していないが、敬老会に地域の老人を招待したり、保育園児・ボランティア受入れ、手作りのおやつを近所に配るなど地域住民との交流積極的に取り組んでいる。今後、地域に向けて「認知症高齢者介護相談窓口」を設置したいと意欲的である。	○	ホームの季刊誌や広報を地域に配布したり、自治会の回覧等を利用し、地域へホームの理解を深めて行く活動や認知症等へのケア方法・相談窓口の設置等、公民館祭りへの参加や地元の方達との交流の場としてホームを開放する等の取り組みを希望します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム運営者・管理者・職員は自己評価・外部評価の意義を理解されており、前回の外部評価結果等を活かしながら、具体的な改善に向け、積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年2回程度しか開催できていない。外部のメンバーから出された「ホームのお便りを地域に配布したり、市報等を利用してホームをもっとアピールしては・・・？」という意見について、これから取り組みを実施していく予定である。	○	運営推進会議はせめて3ヶ月に1回程度開催し、利用者・家族や一般職員も参加して現場の生の声も発信できる場になるよう支援されることを望みます。テーマや内容によって関係者・参加者の構成を変える事も良いかもしれません。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホームや小規模多機能事業者・地域包括のメンバーが2ヶ月に一回集い、「地域密着系部会」が開かれ、参加している。各事業所が抱えている問題や困難事例の発表・感染予防の勉強会などを行っている。また、非常災害時、近隣の避難者の受け入れに対する協力依頼と打診も市町村からあり、法人と相談し対応・連携出来る様していきたいとの事でした。		地域包括の参加だけでなく、市町村や行政関係者にも参加頂き、事業所の抱えている問題や困難事例に対する行政の考えや意見の交換、指導も必要ではないかと考えられる。現場の状況を把握していただく事で、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んで頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況や健康状態について、個々にあわせて報告している。受診時や病変事等はその都度電話連絡・報告を行っている。訪問当日も家族の面会があり、職員が日常の生活状況等について報告されていた。		定期的に担当職員からその月の生活状況や健康状況・エピソード等、職員の異動等について一筆頂くと、安心感が増し、信頼関係が一層深まると感じます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満や苦情等はホームにも法人にも寄せられていない。何か希望があれば、家族から直接職員や管理者へ言えるよう信頼関係が出来ており、またホーム側の傾聴する姿勢や意見を抽出する努力が感じられた。		お手紙を毎月送付するなどの努力を重ねることで家族と親密な関係になれば苦情は相談に変わってくると信じます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職は各一回ずつあり、いずれも利用者へ配慮し、職員の紹介や交代への報告を行い、ダメージを最小限に抑えるよう努力がなされている。		家族会の時に家族へ報告がなされたが、ホーム便りや季刊誌等で家族への報告が時差が大きく生じないよう配慮が要るよう感じられます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画はないが、職員の段階に応じて、リーダー研修の受講や接遇・認知症研修等を受けられる取り組みがなされている。その他の研修に参加したら伝達講習を行ない、すぐにケアの改善へと実行に動いている。		ホーム職員スキルアップ研修や法人内外への研修派遣の機会をもう少し確保して頂くと、より質の向上が図れるのではないだろうか。また、職員間の伝達講習も定期的に行われる事を希望します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の「地域密着系部会」を通じて、情報交換やネットワーク作りが進められている。相互研修についてはこれからの課題として進められていくとの事。		相互研修を行う事で、お互いに刺激あいながら、サービスの質の向上を目指していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談時の本人・家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、サービス利用の前に見学してもらい納得したうえでサービスを開始し、徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは会話やスキンシップを通して、出来る事をお願いしたり、手伝って頂く事に感謝の言葉を述べながら、一緒に支えあう関係を築いておられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス提供開始時、利用者に「生活歴用紙」を本人に記入していただき、意向や思い、希望や好みを把握に努めている。また、困難時は本人生活歴や今までの暮らし方について、家族から情報収集を行い、本人本位のプランになるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所独自の「生活歴調査票」を作成している。それをもとに、本人・家族の気付きや意見、関係者がアイデアを出しあい、話し合った結果をもとに介護計画が作成されている。		計画作成時や課題分析時など、家族と本人も含めた話し合いの場を持つ事もお勧めします。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回ケアミーティングを実施している。介護計画にある項目を個人ファイルに掲げチーム全員で確認していける仕組みになっている。状況の変化が生じた場合などは連絡ノート等を活用し、必要時臨時的ケアミーティングを行なっている。		家族や本人も交えた担当者会議の開催を行う事で、新たな意見や希望、課題等の発見が出来るかもしれません。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	遠方にいる家族が帰郷時に宿 泊希望にも対応出来る様準備 がなされている。病院受診に対 応出来ない家族に代わり、受診 の付き添いや買い物、散髪等多 方面に渡り、柔軟な支援が成さ れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	ホームに入所前からの主治医と の結びつきを大切に考え、かか りつけ医を変更せずに、受診・ 連絡等の連携を図っている。ま た、協力医療機関への変更の希 望があれば、家族や本人に同意 を得て、適切な医療が受けられ るよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	看取りのケース1例ある。本人・ 家族等・かかりつけ医等ケア関 係者との話し合いをくり返し・ 対応方針の共有を図っている。 重度化や終末期のあり方につ いて、早い段階からの本人・家 族の意思・方針の確認は準備段 階である。		重度化・終末期に向けた方針の 共有について、今後、法人・管 理者・職員と話し合いを重ね、 ホームの方針が確立される事に 期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	個人記録は事務所の棚に收容さ れ、関係者以外は目に触れない 様にされている。特にプライバ シーを守ったケアに取り組んで いる様子が見えかけた。プライバ シーの保護の徹底や個人情報の 漏洩防止については会議等でも 徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先す るのではなく、一人ひとりのペ ースを大切にし、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそ って支援している	入所者一人ひとりのリズムが既 に出来ており、職員がそのリズ ムを大切にしながら、見守り・ さり気なく支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて、職員がお願いをする等、一緒に食事の準備や片付けを行っていた。また食事と一緒にされ、味わいながら楽しい会話が飛び交っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は大きめで2~3人が一緒に入れる大きさ洗い場にも余裕がある。入浴の時間帯は午後に設定されているが、入浴の希望があれば、時間に関係なく支援が成されていた。		2ユニットに同型の浴槽がある。協力し合って入浴支援できれば担当者数にも余裕ができ要介護4~5の利用者への対応も可能になり、他の利用者も「お出かけ温泉気分」を味合えるのでは？今以上に入浴を楽しめる工夫を期待します。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「生活歴調査票」をもとに利用者一人ひとりの力を活かした役割がある。編み物や花の世話等、個々の生活歴や持っている力を活かしながら、役割・楽しみごとの支援が成されている。ホームの敷地内の畑の世話も職員と一緒に世話をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の行きつけの床屋に同行、好きなお酒をスーパーまで一緒に買いに行く、時には全員で遠足等戸外に出かけられるような支援をしている。また家族の協力でお墓参りや食事の外出もある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出を好む利用者もあり、さりげなく寄り添い支援。閉鎖的なホームにならないように居室には電話が設置され、日中は玄関に鍵を掛けないで地域の人々や家族等が気軽に立ち寄れるよう取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導で応急手当、救急法、消防訓練(日中・夜間想定しての消火避難訓練)実施している。予測されるリスクについて家族との話し合い合意を得ている。災害時の備蓄もある。		非常災害時、近隣の協力は必要不可欠と考えるため、避難訓練時や消防訓練時の協働参加への呼びかけも大切と思われる。また、地域の人々や他の事業所の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行ない、一緒に訓練を行なう方向で取り組んでいかれるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの職員に栄養士がおり、献立や栄養のバランス・利用者の状態や習慣に応じて支援されている。ホームでは下剤を極力使用せず、食事の内容で対応がなされている。		食物繊維の豊富な食材を用いての調理、水分量の確保が十分に成されている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は異臭も無く、居間・廊下・居室等十分に自然光が取り入れられており、テレビの音量も程よい。居間や食堂・廊下には季節の花が生けられており、お雛様も飾られていた。居間の畳コーナーに炬燵が出されており、利用者は心地良さそうに転寝したり、新聞やテレビを見たりと思い思いに過ごされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室南向き、障子を使って落ち着いた雰囲気になっている。使い慣れた生活用品や好みのものを持ち込んで、生活しやすい様に工夫がなされていた。利用者の中には、配偶者や家族の写真を飾ったりしておられた。		